

提案授業では、1年3組の数学1の授業を公開。どの教師も、教育委員会関係者も、興味深そうに各グループを見学しました。

「壁を取り払う工夫を」

東京大学大学院教育学研究科 佐藤学教授

授業を見学してまず思ったのは、教師と生徒がとても良い関係にあるということ。どの子も自然体で、積極的な姿勢が見えました。先生の指導力のたまものです。先生が無駄なことを話していなかったのもいい。最近の若い先生は無駄なことをしゃべり過ぎる傾向が見えますから。ただ、ずっと教壇の向こうに立って話すのではなく、どんどん生徒の列の中に入り込んで、生徒の間で話しかけるのいいと思います。教壇という壁を取り払う工夫をしてみてください。

普段から授業内容を研究することが教師の成長につながります。

授業風景や講演会で学ぶ 中高一貫教育の研修会を開催

川根高校で開かれた川根地区連携型中高一貫教育・中高合同研修会。川根高校で日常的に実施されている授業を公開し、その内容から学ぶ教師のための研修です。今回は、東京大学の佐藤教授を招いての講演会も同時開催しました。

this month
HighLight

今月の注目

3

川根高等学校では4月21日、川根地区連携型中高一貫教育の第1回中高合同研修会を開催し、連携する中学校(川根中、中川根中、本川根中)の教師や近隣小学校の教師、県・町の教育委員会関係者など約70人が参加しました。

この中高一貫教育連携校を中心とした研修会は、教師が学ぶ場。川根高校で実施される授業風景を見学したり、有識者を招いた講演会を開いたりと年2回開催しています。

今回は提案授業として、1年3組18人の数学1の授業を公開しました。会場となった管理棟社会科教室では、授業を受ける生徒たちが「コの字型」に机を配置。教室の後方で、他校の教師らが見学する形で授業を進めました。

数学1で習う実数と小数の特徴などについて、生徒数人でグループを組んで討議し、それぞれ導き出された解答を代表者が発表しました。

その模様を他校の教師らが、自由に移動しながら見学しました。生徒が繰り広げる話し合いに興味津々の教師たちは時折、身を乗りだしながら見守っています。中には生徒に質問を投げかけたり、アドバイスを送ったりする教師の姿もありました。

午後1時半からは校舎に併設されるセミナーハウスに移動し、東京大学大学院教育学研究科の佐藤学教授による講演会(および提案授業の講評)を開きました。

佐藤教授は、先に実施された提案授業について「こういった授業内容の研究は、日常的に実施できたらその方がいい。特別授業の中でやってあまり意味はありません。普段実施している授業を研究して改善につなげていくことこそ、教師の成長につながるんです」と話し、受講した教師たちは真剣な表情でメモをとっていました。

川根高校の河原崎全校長は「当地域の中高一貫教育は本年度で10年目を迎えます。これまでの努力が実を結び、成果が上がっている面が多くあります。しかしその反面、新たな課題も見えてきているという現状もあります。今後、この研修会が形骸化してしまわないよう、皆さんに役立つ内容を企画し共に学んでいきたい」と話していました。

